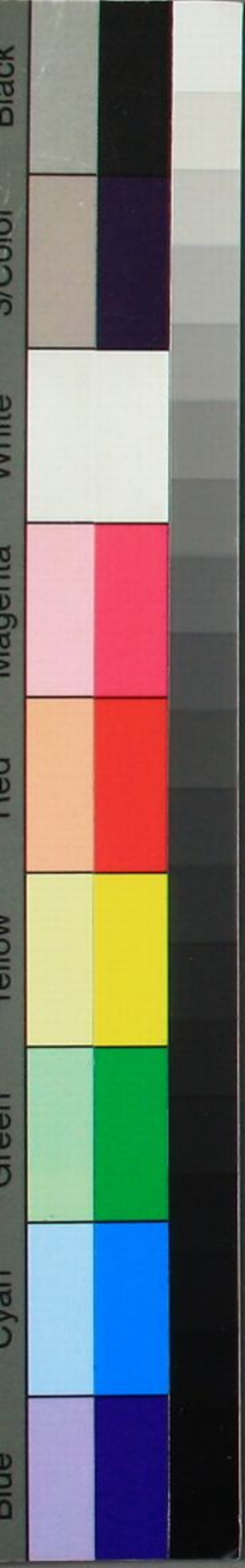


住吉名勝圖會

二





住吉名勝圖會卷之二目錄

年中行事畧記

白馬節會之圖

闘雞之圖

大乘會舞樂之圖

競馬之圖

田樂之圖

荒和御祓之圖

踏歌節會之圖

御結鎮神事之圖

汐干之圖

卯之日祭圖

御田植女之圖

社僧優戲之圖

孟蘭盆會之圖



相撲會之圖

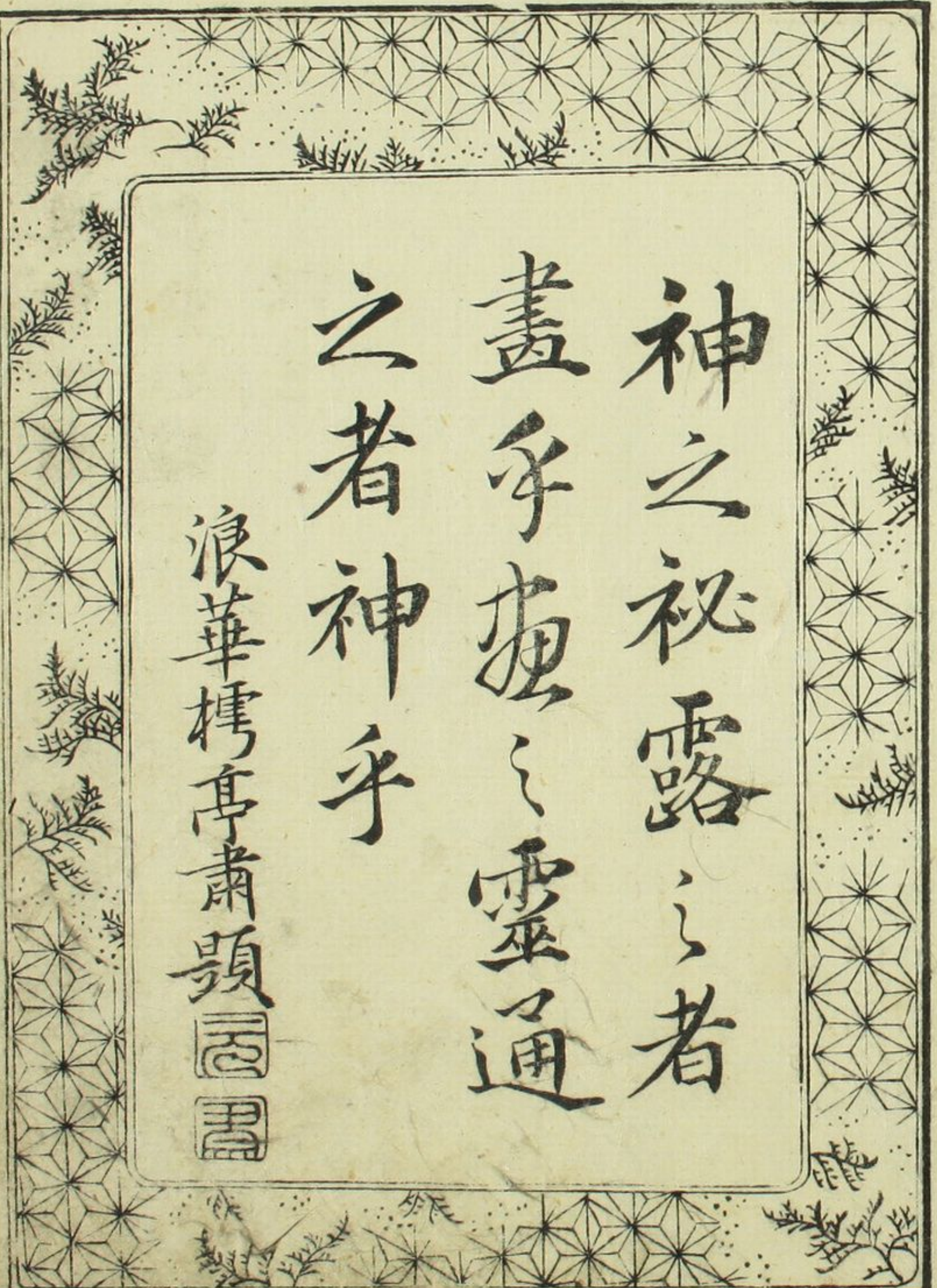
新嘗會之圖

以上

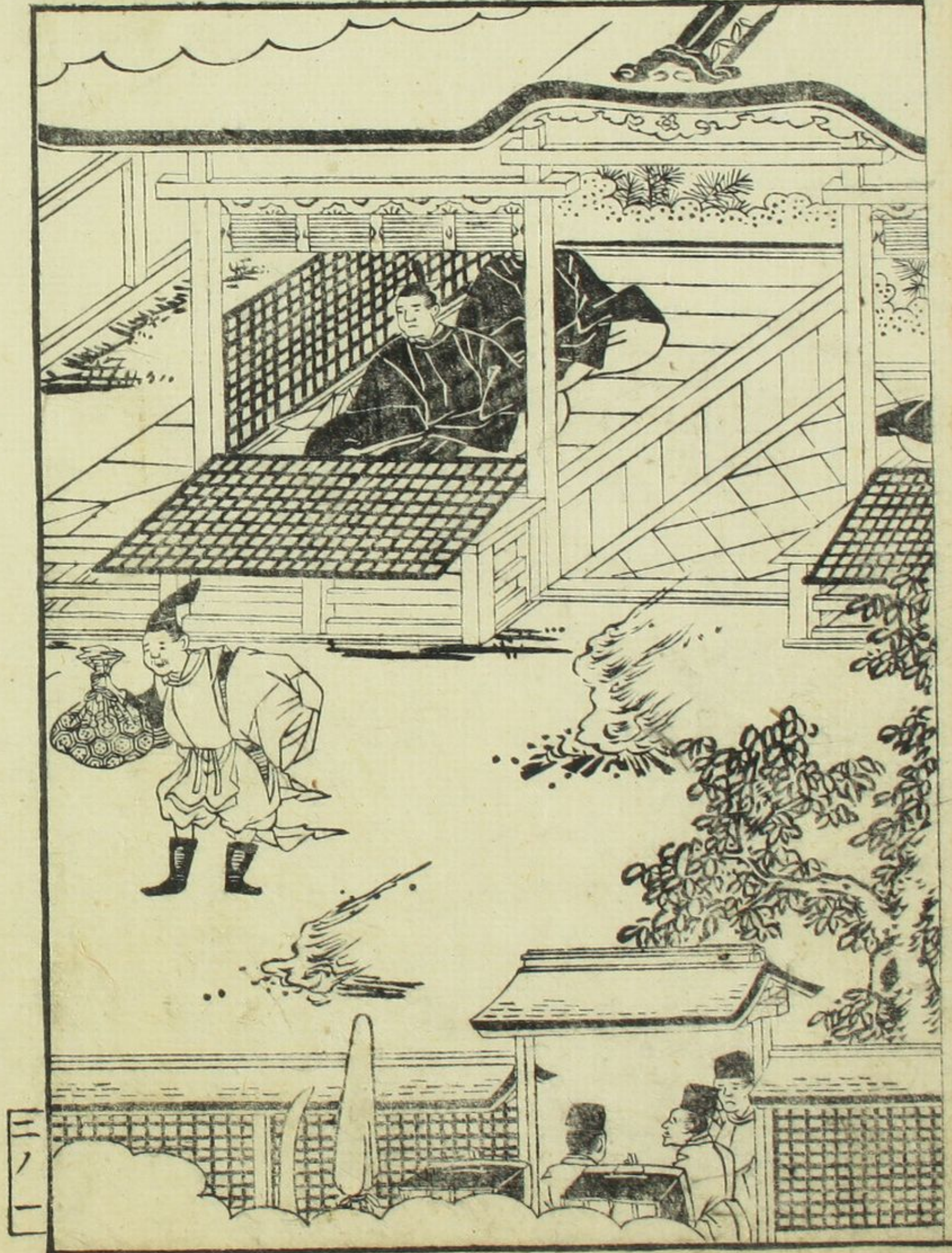
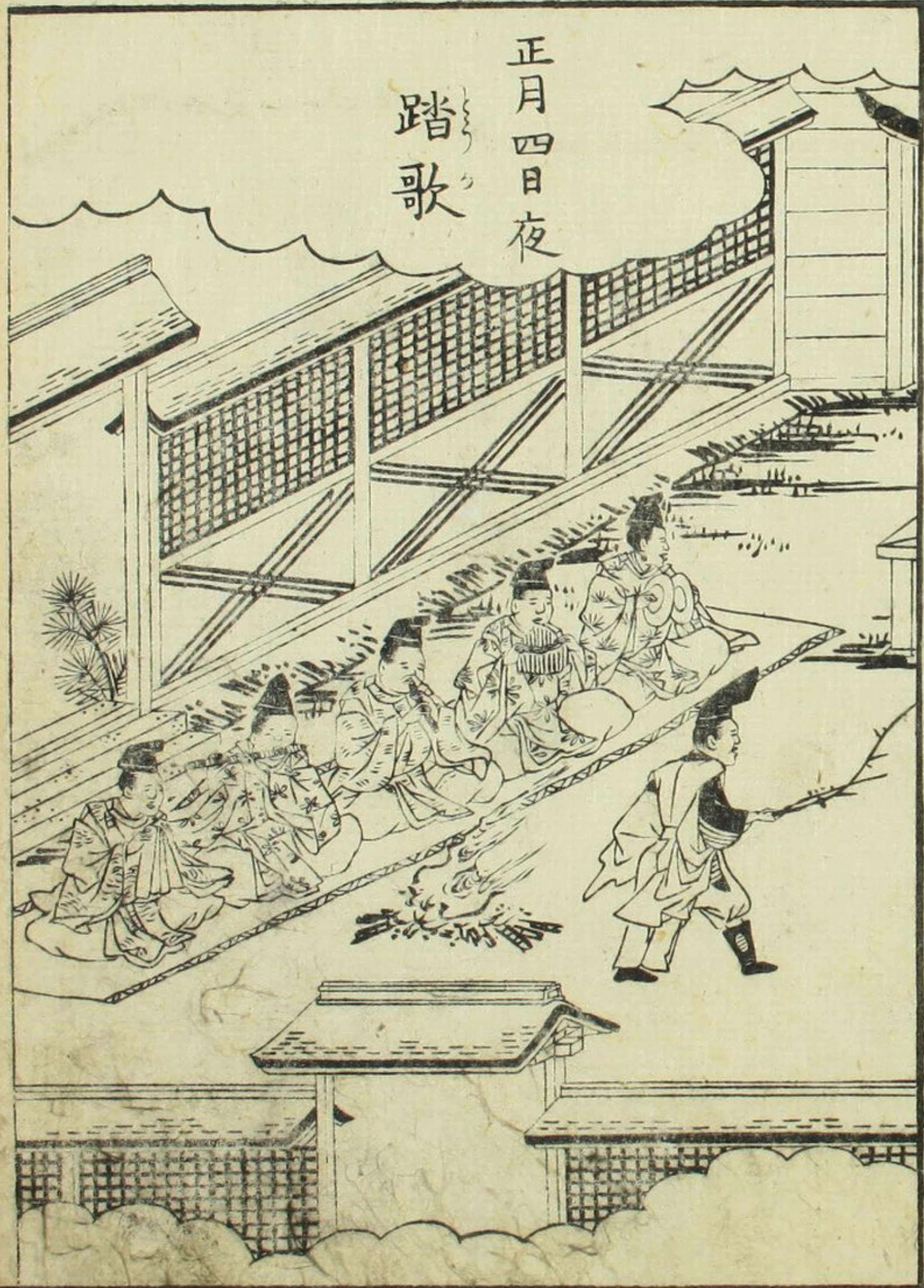
北祭神事之圖

神之祕露之者
盡乎極之靈通
之者神乎

浪華樗亭肅題



正月四日夜
踏歌



住吉年中行事

正月

○朔日

辰之半尅奉神供

總官權官氏人等晦日の夜より神館殿に叙籠り此時御前より

神明白散神酒御鏡餅

神館殿の御供と奉り給宜若水を奉り

總官白散の神酒を頂戴し

正祿宜祝詞と奉り

各再拜して去り

御所の御供と奉り

權宜祝詞と奉り

今夕戌之尅神宮寺

殿廻り終て後神館殿へ入

總官權官神宮寺

修正會自今日至七日

樂人亂聲を發し兩官御堂の時

書戸より入て社僧と同

着座に先万歳樂延喜樂

我羨し次初夜の導師次

後夜の導師終て長慶

以下退出し

○二日

早且兩官出仕奉幣拜大神

午中尅吉書始神館殿にて祈歌り文臺松

○三日

同前

○四日

同前今夜戌尅踏歌

兩官

一之神殿より幣殿に着座に樂人拍子筥篋葉笛大拍子等と持北の中門の前より立雙調と吹き此殿を下舞終て釋文杖と幣持と御前より餅と幣と練童練男御前より出舞田中井戸より出舞萬歳樂延喜樂を奉り其外式事もありて退出し

○五日

兩官出仕拜大神

○六日

同前

○七日

辰之尅神供備進

神官總官權官幣殿に着座に氏人等庭上に着正祿宜祝詞と奉り終て神馬を牽廻り其後五所御前より

祝詞と奉り饗膳の式ありて各退出し

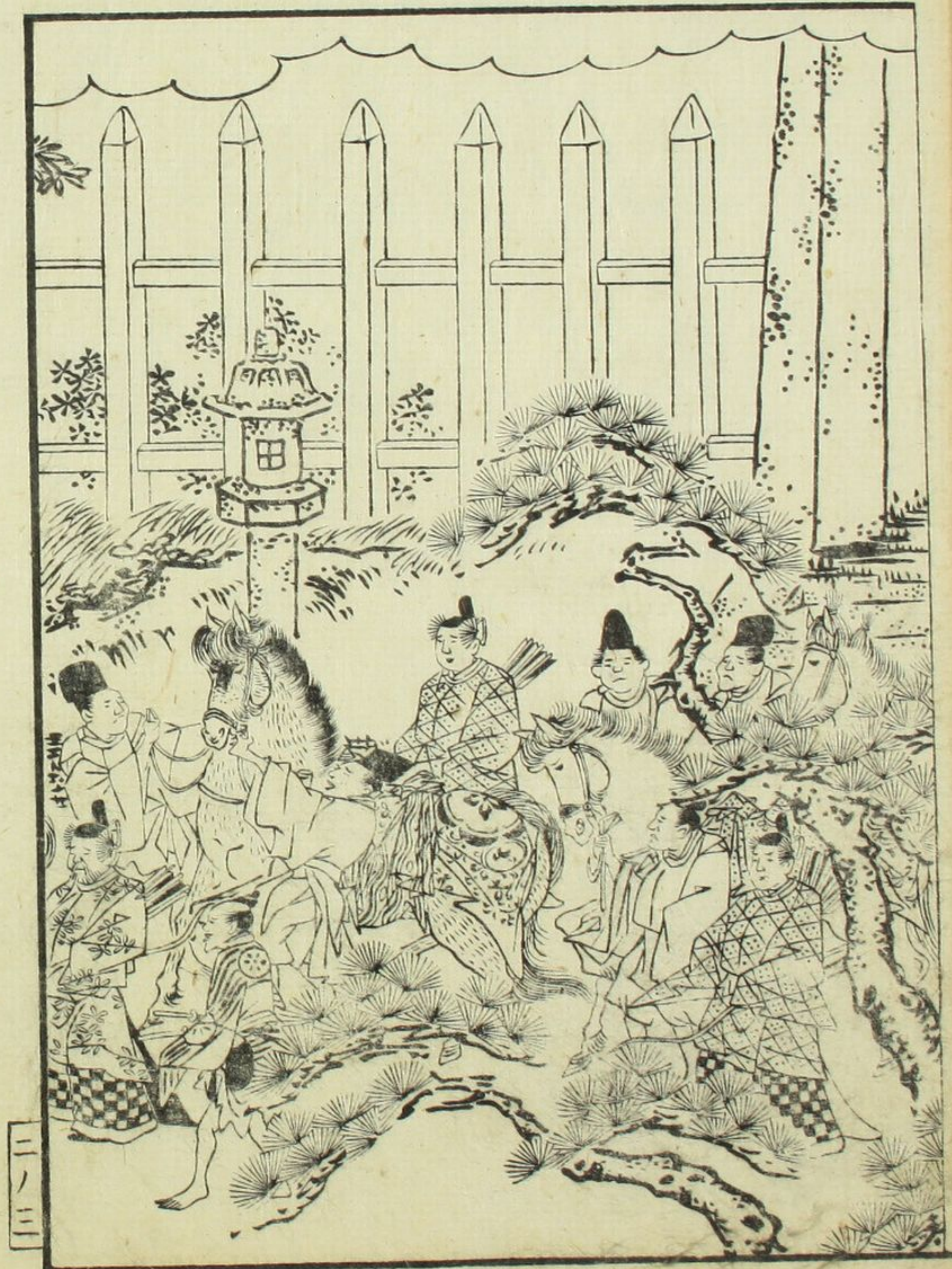
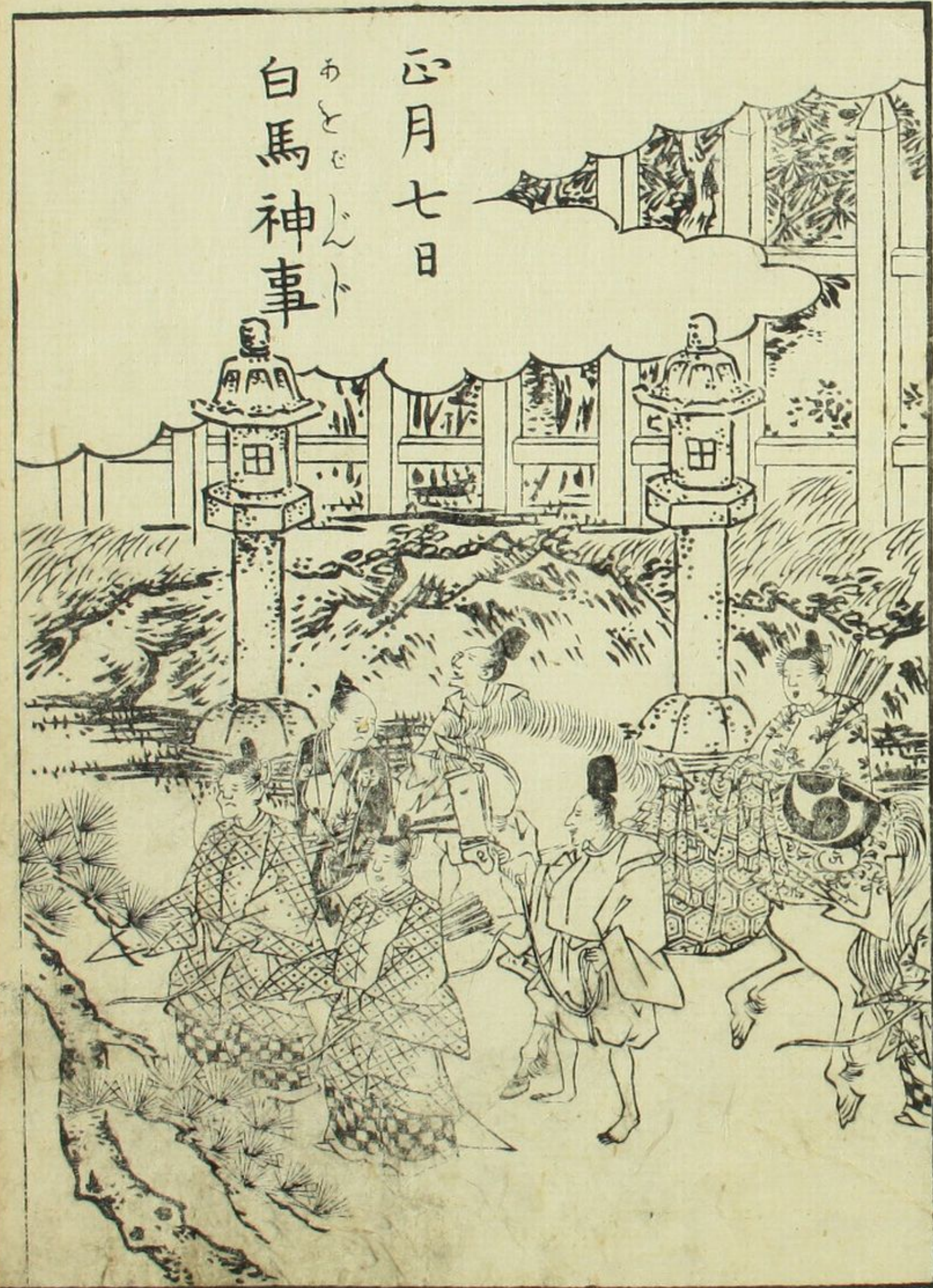
己之尅白馬神事

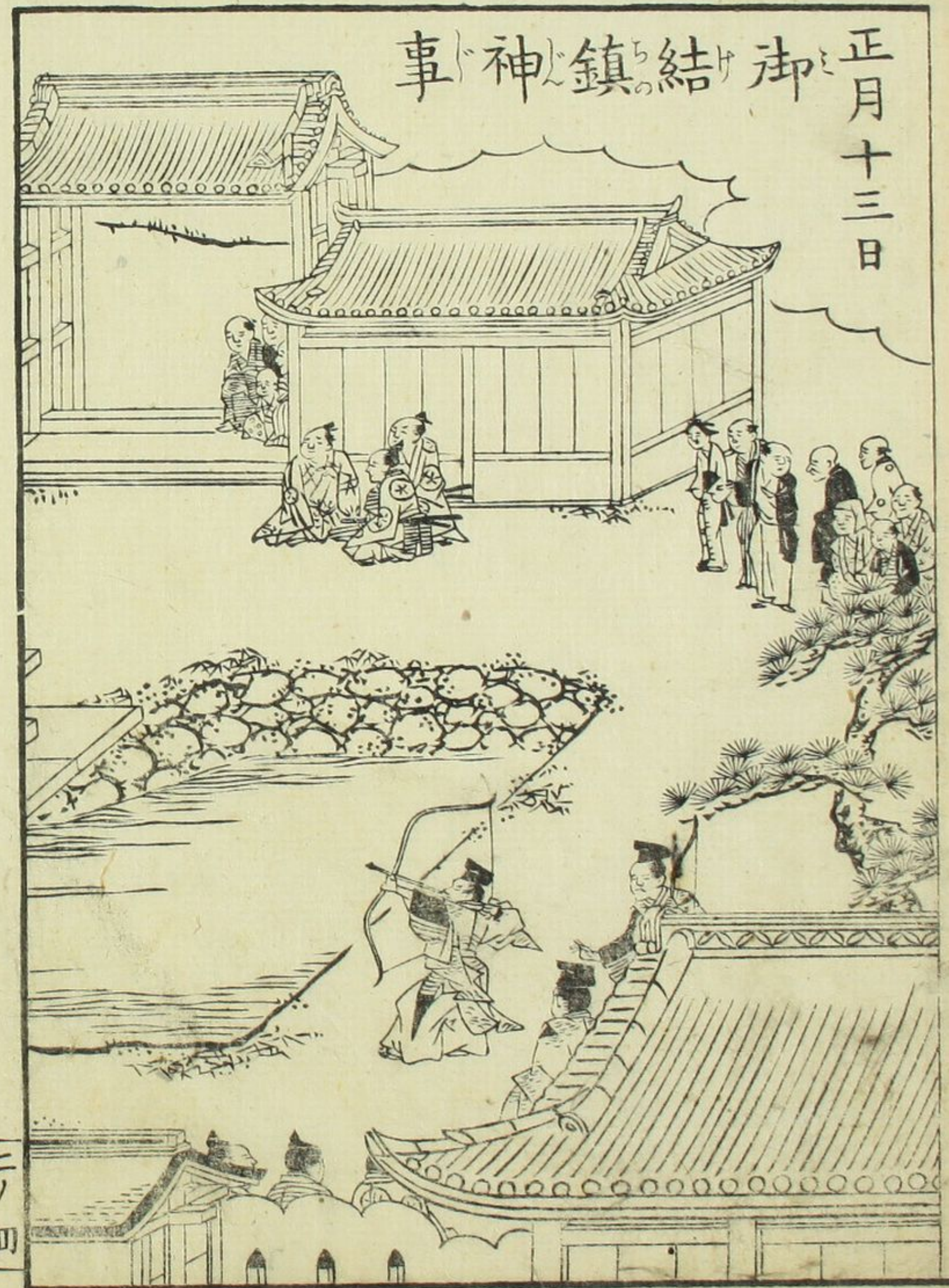
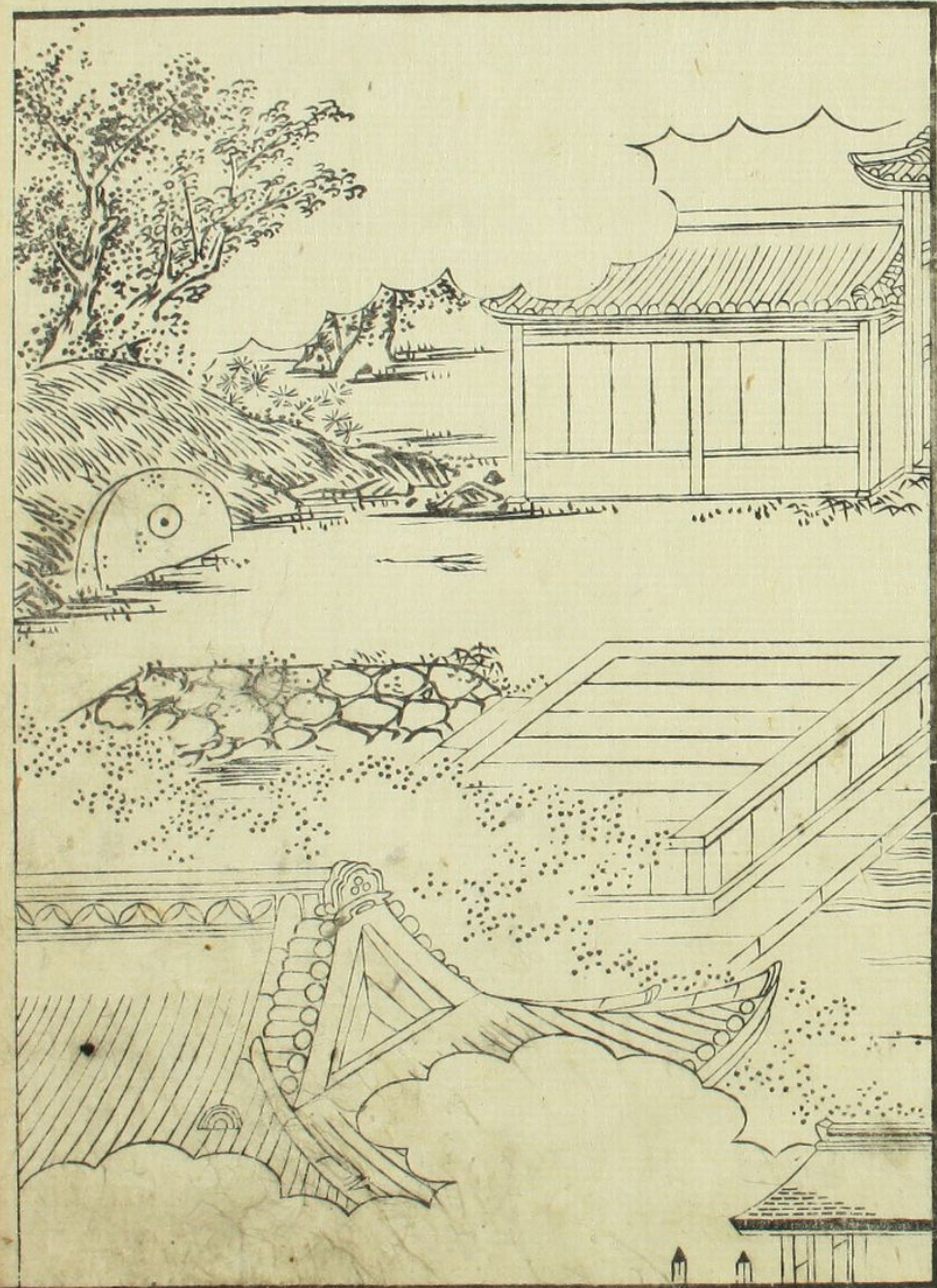
馬四疋内一疋川原毛稱利男十人引矢と持青權の狩衣を着

○八日

津守寺修正會

兩官氏人樂所神官已下出仕万歳樂延喜樂を奉り寂勝





講の讀師高座に登り三臺急を修て退出に
講經下高座三臺急を修て退出に

○九日 正印殿習禮 ○十日 津守寺修正會 八日の式と
同率

○十一日 手鉦始 辰の尅一の 午尅評定始 正印殿 今朝
神宮寺社僧

辰之上尅正印殿御修法 神宮寺社僧 ○十三日

己之尅御結鎮神事 兩官神官氏人等上客殿の
着座一酒一獻とすむ而して

若宮の御前より五次第一の神殿に於て幣殿の
着座に神供等も奉り御講の導師講終て各上客

殿に退き座に神宮寺の社僧同く着座に政所目代
射手以上射手出て弓とく此時南門の側酒保

華鬘より多射手酒一獻華鬘一ツとあり十番
終て各御前より賭弓の射手弓箭と總官權官

酒五獻とす上客殿より座して
酒五獻とす上客殿より座して

○十五日 辰尅神供備進神拜殿廻り 五所御前
神供備進

○十六日 辰尅四社神供備進 五所御前
神供備進

午尅正印殿祈禱

○十八日 奥天神社奉幣神拜 ○廿三日 御連歌會

卯半尅正印殿 行り百韻 卯半尅連歌所 ○廿七日 御歌

○廿六日 御連歌會 行へり 古正印殿とて 行り

二月

○朔日 神供備進拜大神 ○二日 祈年祭齋戸一抜

兩官神官下客殿に着座一祝詞と 祈年祭者祈豊年
養一酒一獻す上客殿に退く

大祭九祈年新嘗祭於神祇官行之見於延喜式

住吉亦修此祭禮以祈嘉穀也

○三日 早且兩官出仕奉幣拜大神 正祢宜祝詞と奏し

酉之尅神館殿中鯉渡之式

○四日 早且兩官出仕拜大神 戌尅四社神供備進祈年

穀之祭也

兩官下客殿に着座し勘所司ハ七女等同く座し一献とす座立て南門のすゝ列ハ立權少祝案内とす一やれいやく神官兩官御前と総官庭上圓座とすきて座と權官氏人等進とし

○五日 早且兩官出仕拜大神 待者御前御供御酒

酉之尅國祭

兩官以下着座昨夜のどし酒一献終て後在廳社氣神馬四疋と進む且幣と

○六日 早且唐煎 兩官上の御厨に着座拜膳酒三献終て

○十日 於連歌所御會 ○十八日 古正印殿御歌會

○廿日 大乘會定之神事 午尅兩官氏人大海社司神官

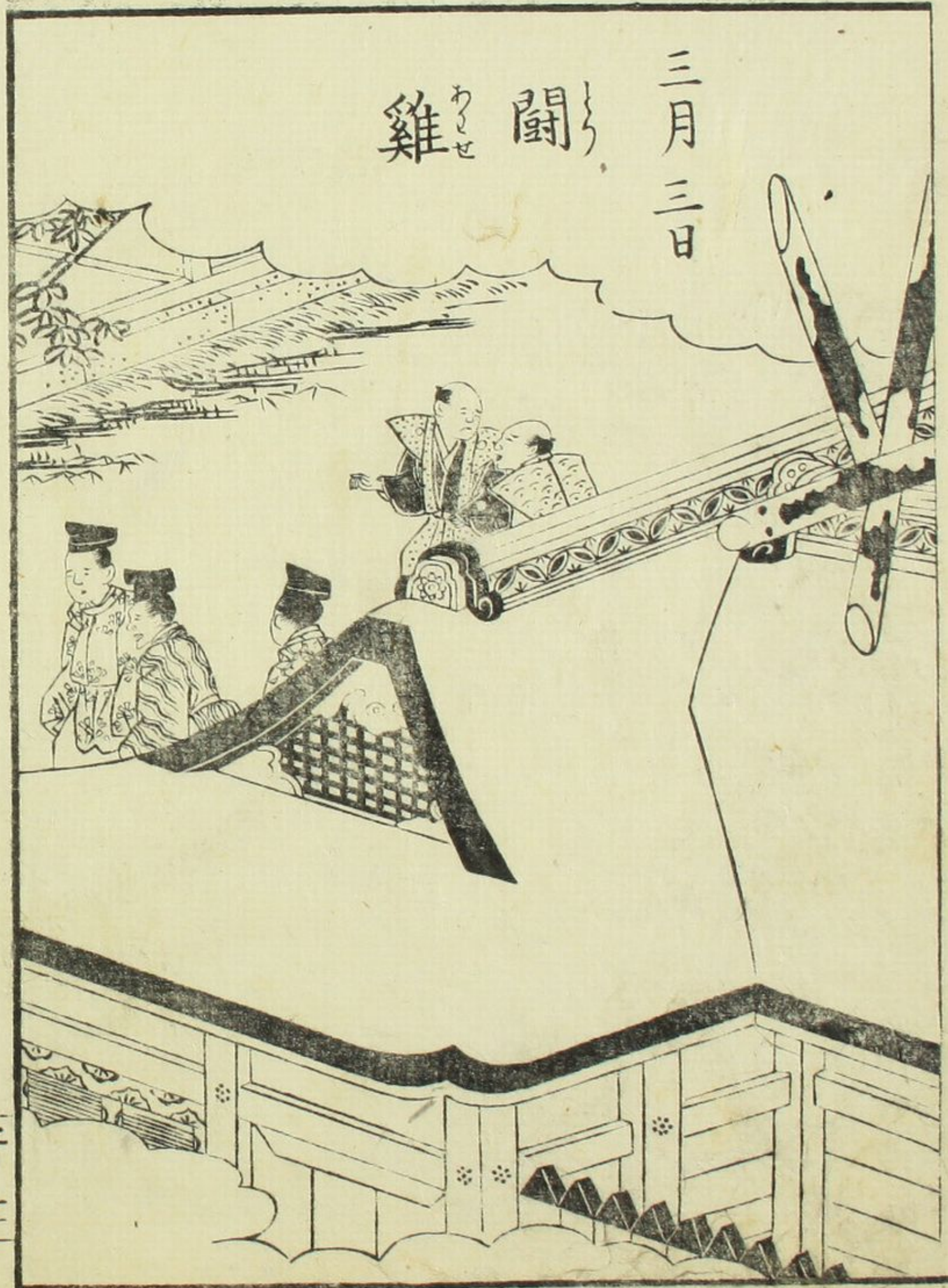
○廿三日 古正印殿御連歌 ○廿五日 二季御連歌

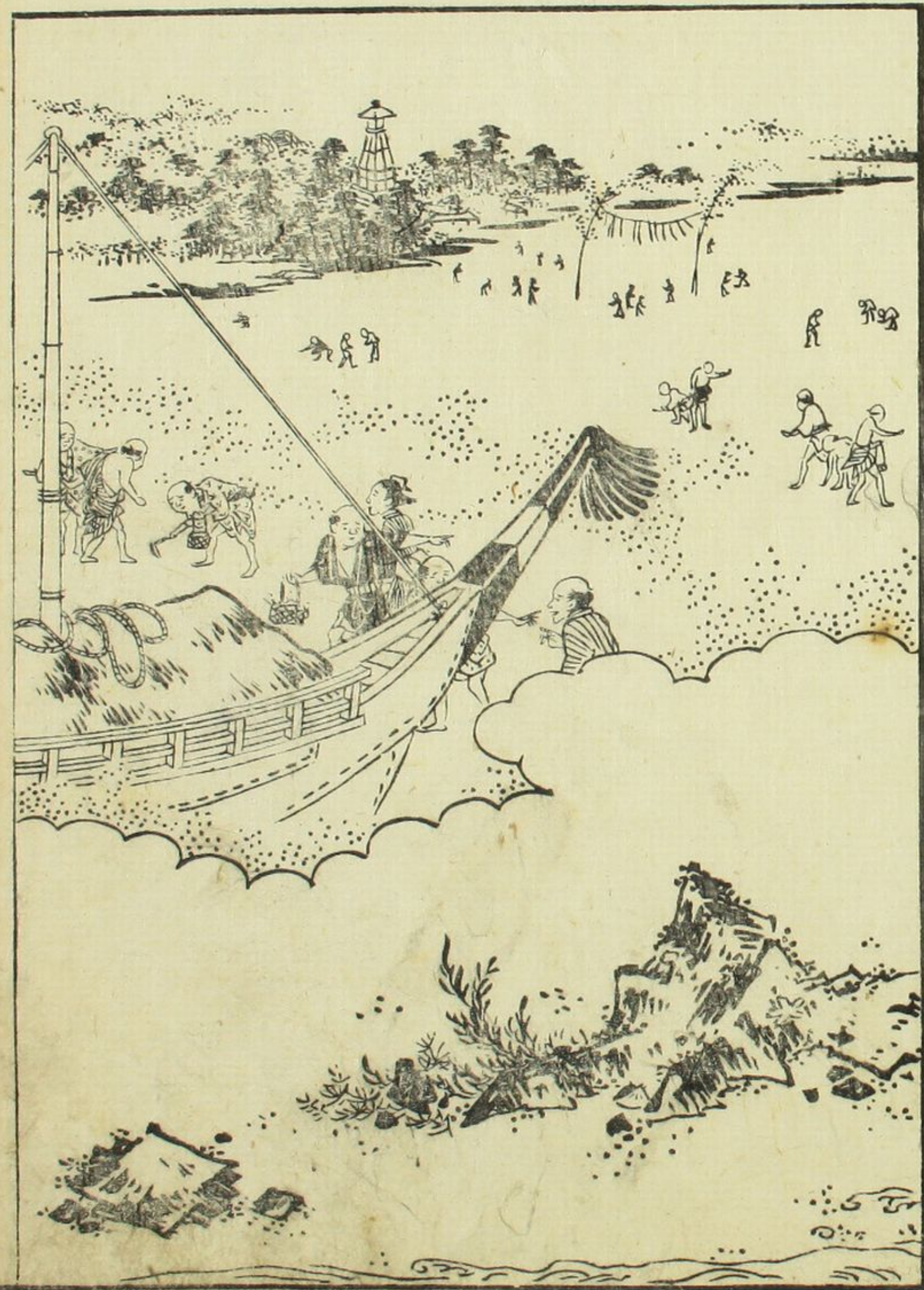
○廿七日 古正印殿御歌會

三月

○朔日 早且兩官出仕拜大神 正祢宜祝詞と奏し

○二日 早且同昨日 ○三日 辰尅神供備進





兩宮の神官樂所南門より前庭に於て常座に
正稱宜祝詞と奏して各五所の御前より神樂祝詞と奏
終てす。奉殿の舞を舞う。兩宮常座に於て夫人前中門の
廊に繩筵を敷て座に樂所座上の伎屋に於て神官北の
中門の廊に小筵を敷て座に其後同舞十番神所司
の舞あり。後王納蘇利と奏し
其後殿廻りて終る。

○七日

戌尅大乘會試樂

住江殿にて執行。兩宮系入
の時樂所亂聲。發し惣
官西の妻戸の際に座に權官南の高欄の際に座に各
小文置一帖と敷く。萬歳樂延喜樂。後王納蘇利と奏
舞樂習練す。義

○八日

大乘會

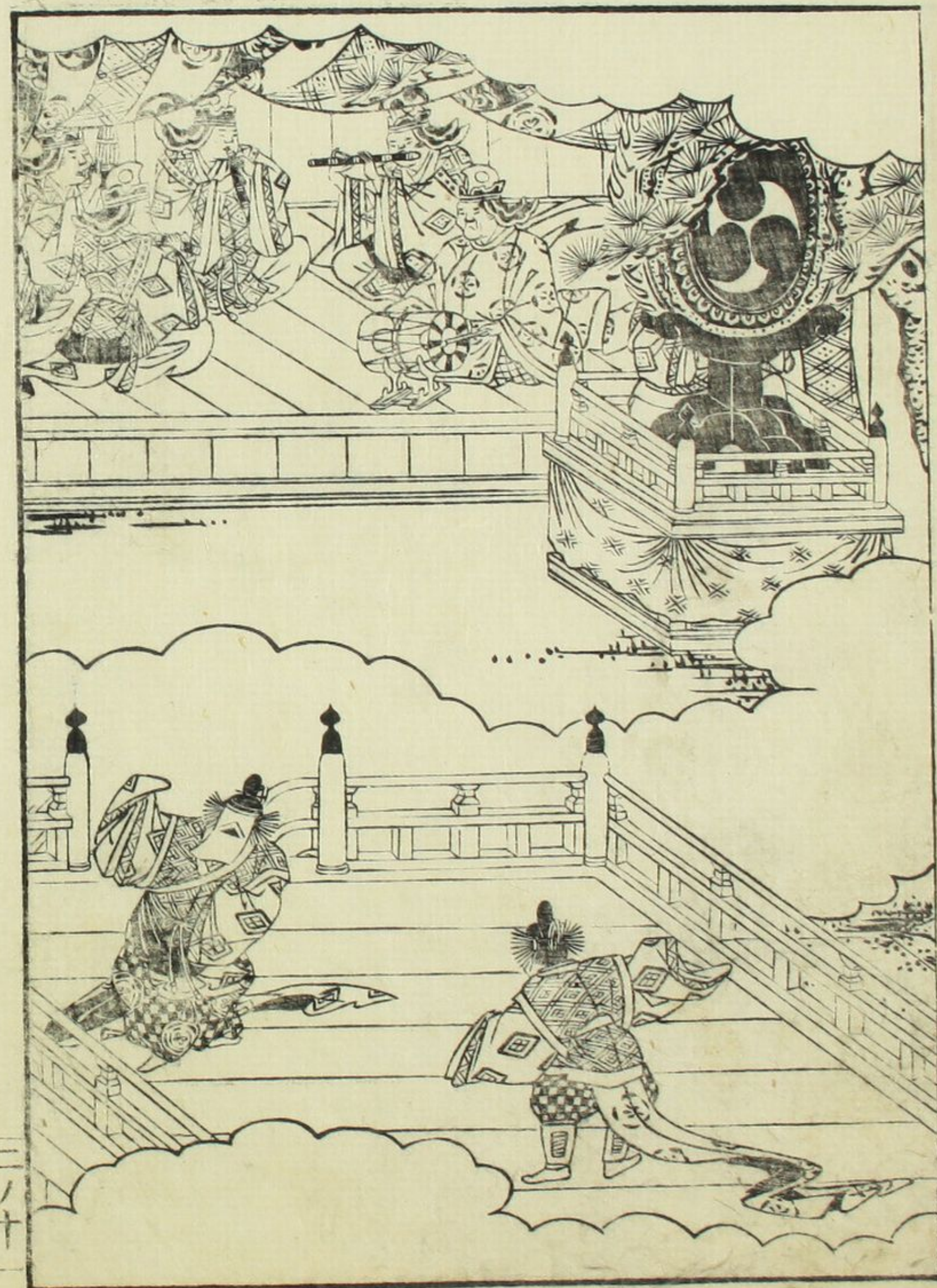
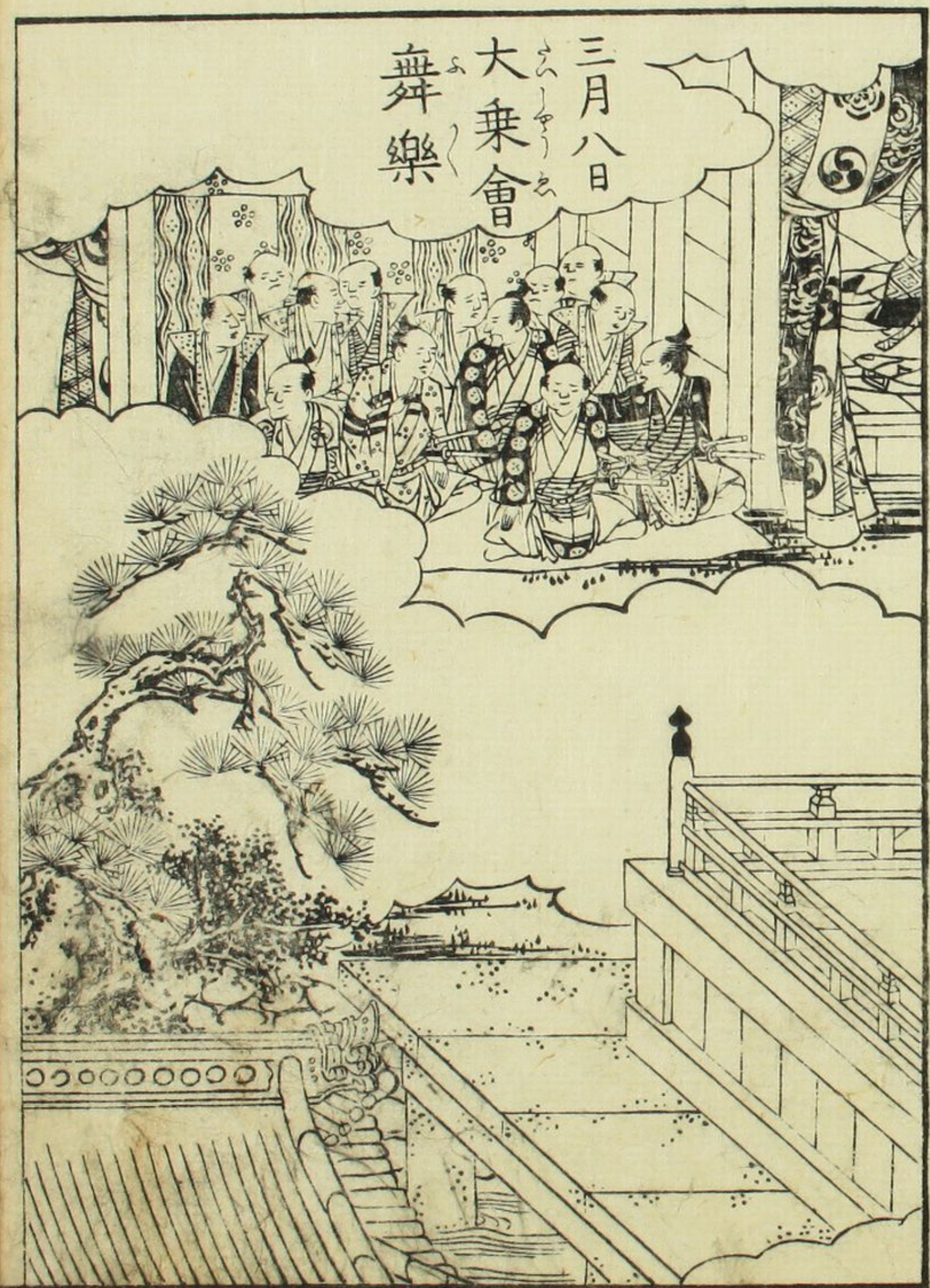
寅尅中下にて執行。樂所後王納蘇利と奏
寶と出。奉り左右の中門より。高振の上
直。奉。兩宮以下。住江殿にて。後束と着。御前
胡。神樂。四基。奇奉。各。神馬。前。亭。時。權。少。統
胡。床。と。ま。む。正。稱。宜。再。拜。神。人。警。蹕。樂。所。亂。聲。發

止。春庭樂と奏し神幸北の中門より四足門に練出
東。ふ。れ。南。門。より。舞。臺。と。經。て。南。の。四。足。門。に。入。り。門。内
帳。宮。と。る。く。神。樂。と。安。置。に。總。官。宣。命。と。讀。み。祈。幣。と
頓。宮。の。大。床。の。上。に。置。く。兩。宮。神。官。殿。上。に。着。座。に。社
司。勘。所。司。の。氏。屋。に。着。座。に。其。後。社。僧。會。式。と。兩。宮
進。む。次。に。巫。女。舞。臺。に。上。り。供。養。と。供。舞。り。終。て。左
右。の。樂。所。亂。聲。と。發。し。振。鉦。次。に。曾。利。古。次。に。傳。供。次
の。總。禮。次。に。菩。薩。舞。臺。に。上。り。鳥。螺。次。に。講。讀。師。高。座。に
上。り。次。に。唄。師。舞。臺。に。上。り。次。に。散。花。行。道。波。河。鳥。次。に
萬。歳。樂。延。喜。樂。舞。臺。に。上。り。舞。臺。に。上。り。舞。臺。に。上。り。舞
響。膳。飲。酒。と。進。み。舞。臺。に。上。り。舞。臺。に。上。り。舞。臺。に。上。り。舞
元。龜。の。比。當。社。の。神。領。却。畧。と。れ。伶。人。を。散。亡。し。て。舞
久。し。か。り。舞。臺。に。上。り。舞。臺。に。上。り。舞。臺。に。上。り。舞。臺。に。上。り。舞
と。請。り。て。か。ら。し。み。舞。臺。に。上。り。舞。臺。に。上。り。舞。臺。に。上。り。舞。臺。に。上。り。舞
去。り。慶。長。十。九。年。の。斷。絶。し。ぬ。其。後。寬。保。二。年。壬。戌
舞。臺。に。上。り。舞。臺。に。上。り。舞。臺。に。上。り。舞。臺。に。上。り。舞。臺。に。上。り。舞

○九日

小乘會

神官寺にて執行。舞臺にて
御徑并舞樂兩宮以下出座





- 十日 連歌所御連歌會
- 十八日 古正印殿八句御連歌
- 廿三日 古正印殿御連歌
- 廿七日 古正印殿御歌會

四月

- 朔日 辰尅兩官出仕拜大神
- 二日 同前日
- 四日 辰尅神供備進
五所の神供例の
氏人神官等出仕
- 十日 連歌所御連歌
- 廿三日 同所御連歌
- 廿七日 同所御歌
- 六日 古正印殿御歌會
- 三日 同前日

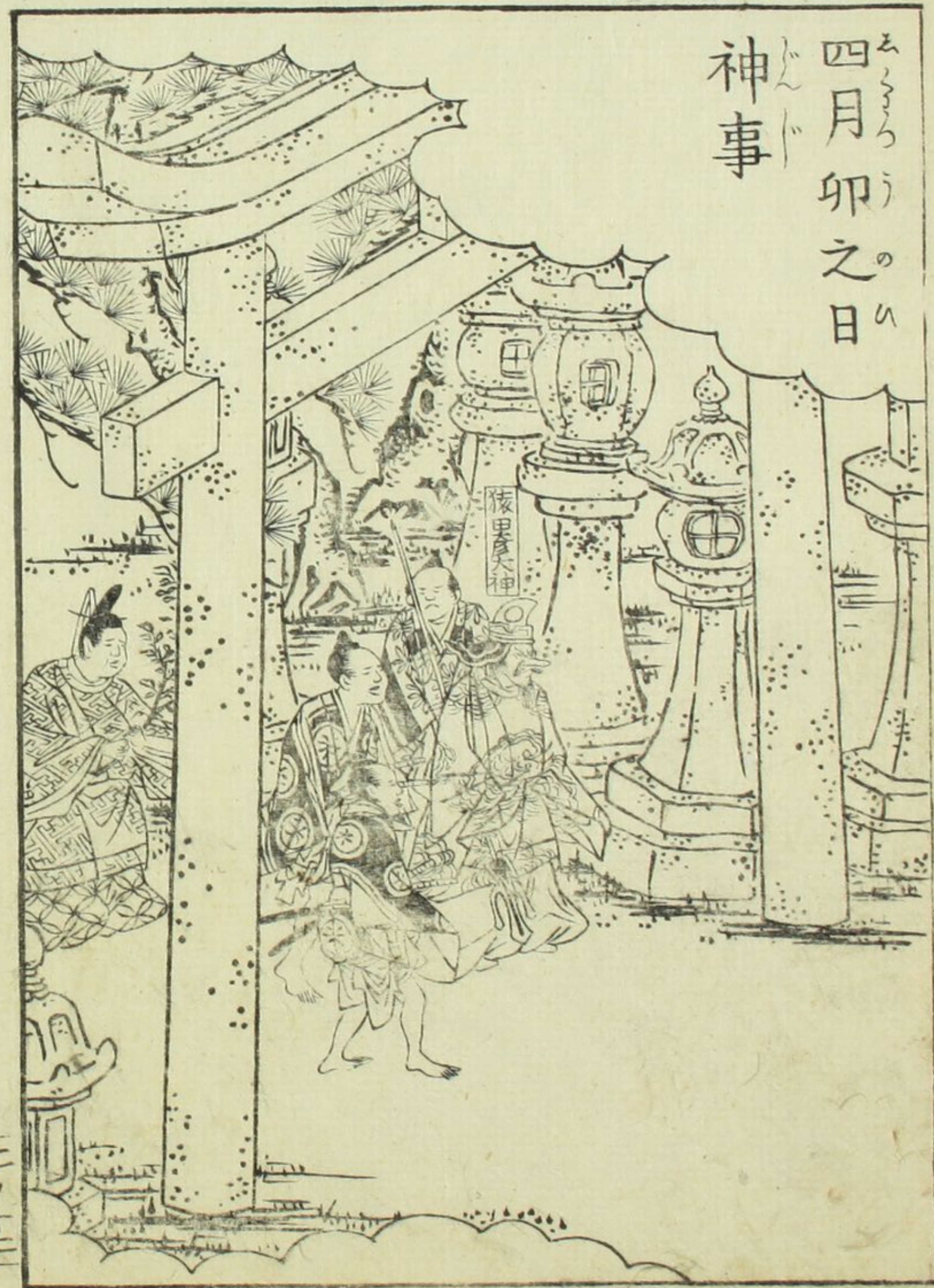
○上之卯日午尅卯日祭

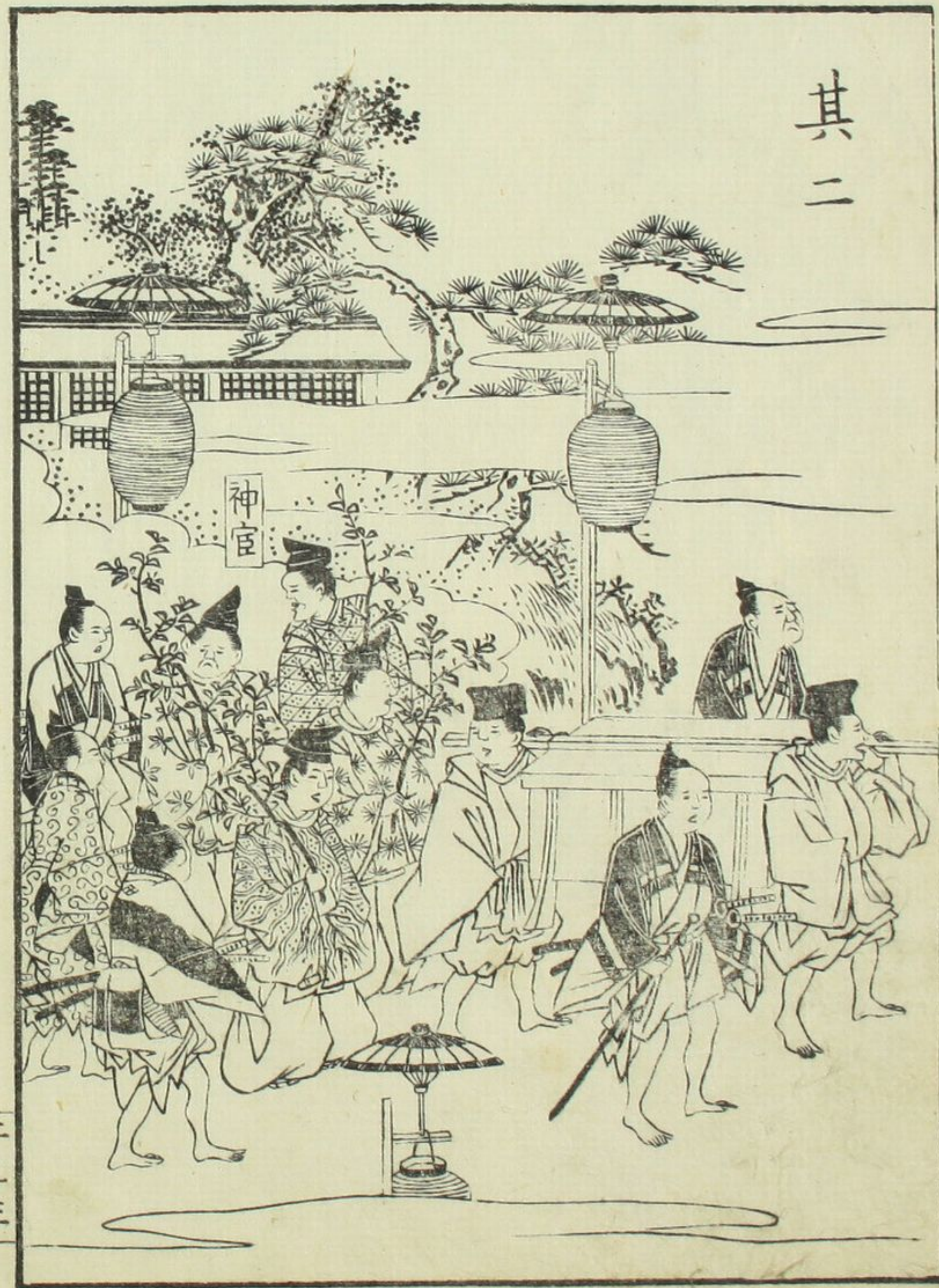
幣取取て拜する事四度終て神人亦權少
祝度權少祝正祢宜授く正祢宜祝詞を差す
に神馬四正引廻し事三度次に神寶以取出し奉り
権少祝神殿の御戸代用總官の前より到りて導居する
時兩宮以下退出し三三四の御殿も是に同し其後五所
御前の御供權祢宜祝詞と差し樂所亂聲と發し
兩宮神殿より神樂一基神馬と寄奉り神幸行也
北の中門と出西の門より猪の鼻に到り東へ行三月會の
中門に入り舞臺と徑て南門より御前に入れ奉り樂所
音樂は止し神寶は納り奉り兩宮以下着座の後舞樂
東遊終て
後退出し

○中之申日連歌所三木神供

五月

- 朔日 早且兩官出仕拜大神
正祢宜祝詞を奏し次
殿より退出入







其四

此日の神事に
卯の葉と
禊木の
枝を
奉り
く柏の木
神の手
相の



二ノ五

神供
本
い
松の
松

神輿



○二日 同前日

○三日 同前日

○五日

兩官以下御前より神供を奉り正印宜祝詞を奏し退き出五所御前神供を献し權宜祝詞を奏し終て殿廻り未之尅競馬 神所司神寶所
神拜等々殿廻り 虎十人下客殿にて饗膳拜酒より行ふ兩官系宮退き
ま客殿に着座に競馬五番終て勝負舞凌王納蘇利と

○十日

兩官出仕拜大神

○十日

正印殿御祈禱

○十六日

兩官出仕拜大神

○廿三日

同前

○廿七日

同前

咒師二座法勝寺十人尊勝寺十人猿樂三座奉座十五人新座三十人法成寺十五人總官の酒肴を後見糸

○廿八日

御田植神事

兩官住江殿に着座植女等見糸の後兩官以下神館の中より

六月

○朔日

兩官社參奉幣拜大神

正印宜祝詞と奏し二三

○二日

同前

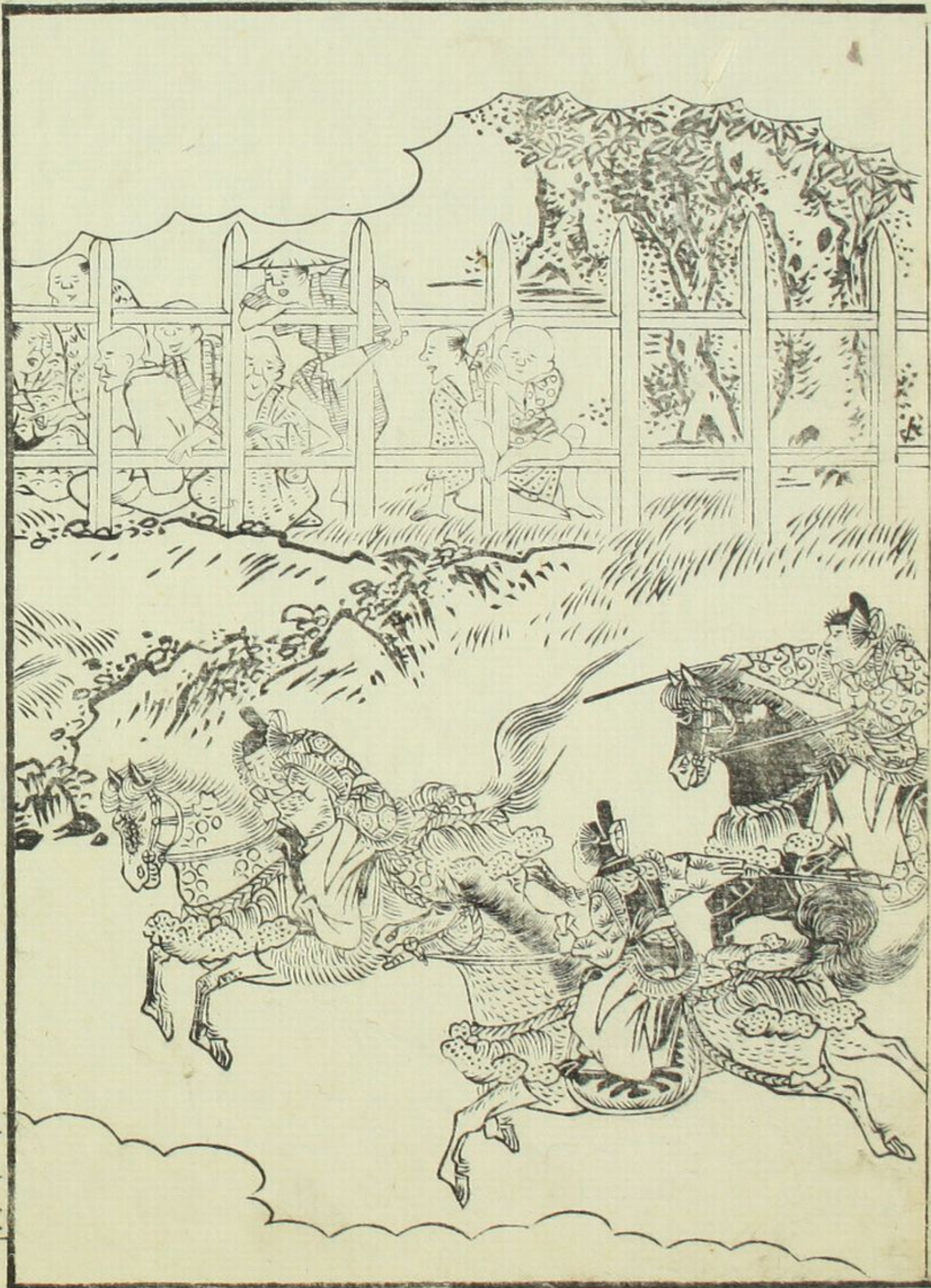
○三日

同前

入て奉社入糸幣殿に着座に神宮神供備奉り
正印宜祝詞を二三の神供備終て社僧所司
田樂以下の役附けと總官の前より持糸以植女奉社の
庭上と立廻り時神人松の葉を持来て植女等と與ふ
猿樂植女の中より立て大鼓拍板と打て歌ふ次社僧
風流奉田樂猿樂風流終て兩官以下南門より
神館の中門と出て御田代の座に着座植女等御田の
南の岸とゆる次社僧風流とて同く廻り次奉田
樂猿樂風流終て植女御田と渡り田樂等大鼓拍板と
打て歌ふ次植女田よりて次奉田と植女同
兩官以下酒一献肴一種次鯉魚の打肉とす心又
一献次同膳前とす心次葉子等又一献進物居
物とす心後猿樂等と縁と賜て各退出次
日猿樂田樂咒師等總官の館より各酒肴縁と賜

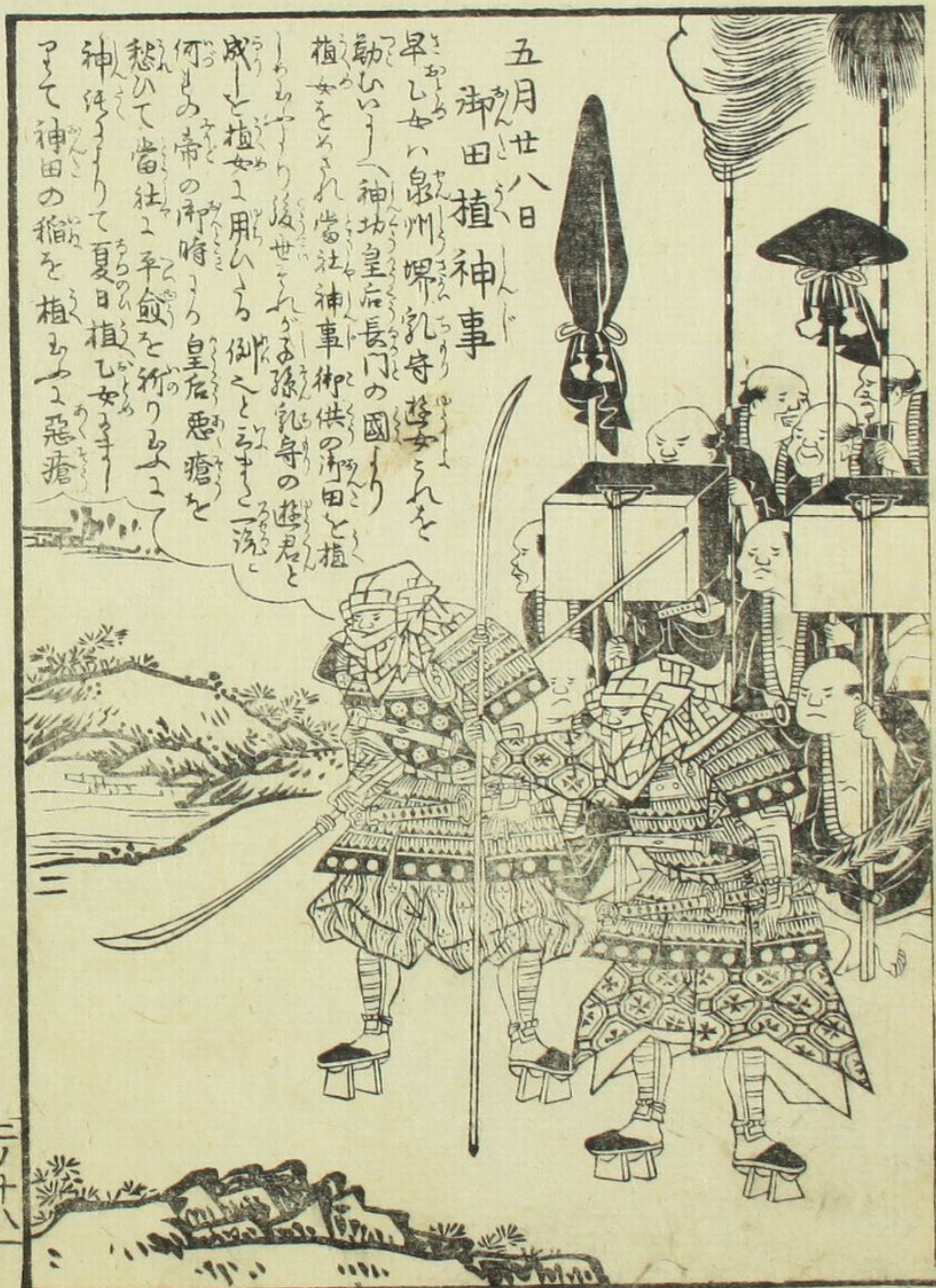
五月五日

競馬

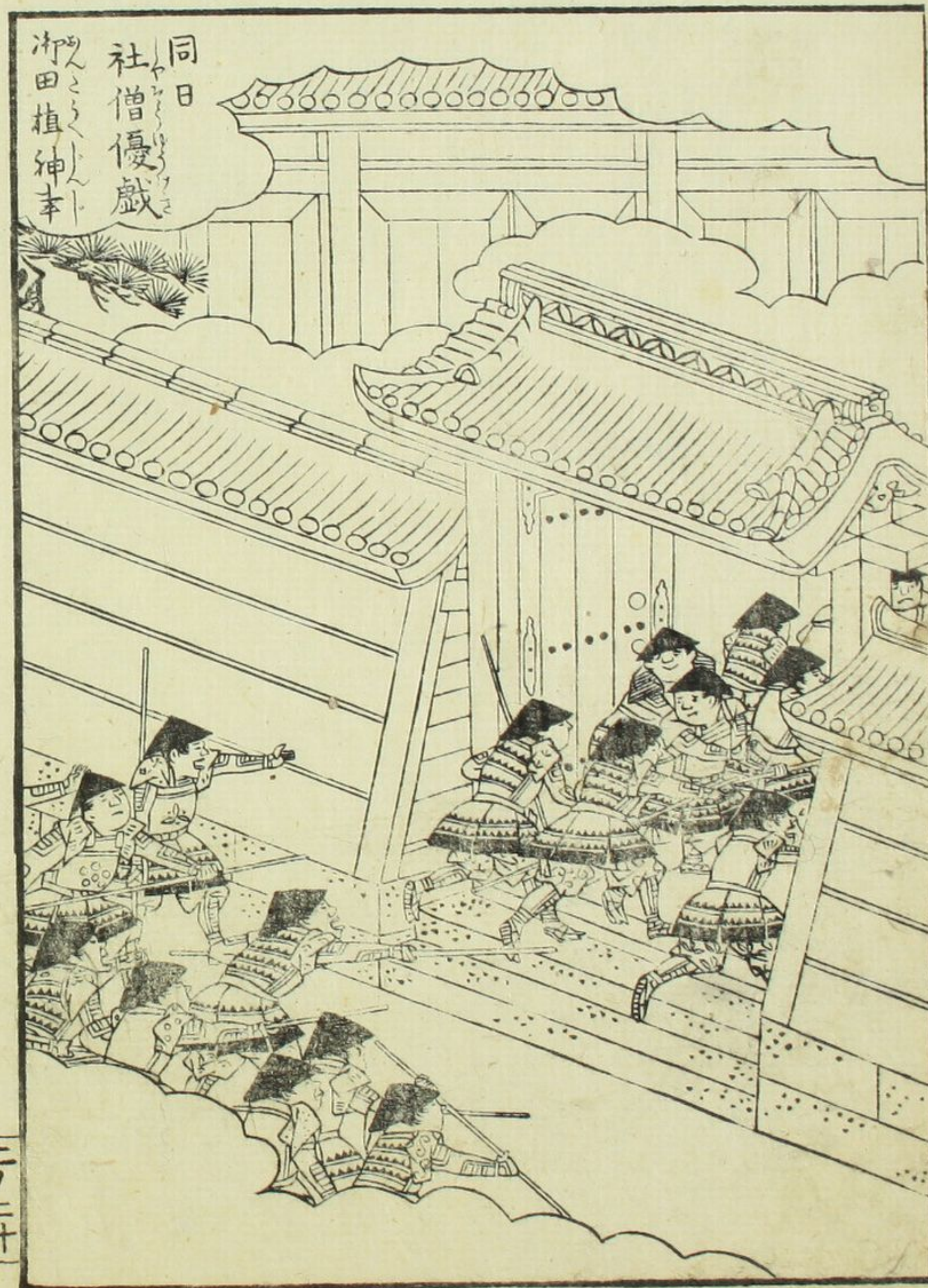




志念より此回皇后乳守
 の家よりアサヒにエヒキ
 例に依りて此里より
 植女をお侍りし事
 いろはにも日記
 もみれば俗流信
 するにたゞしき
 植女の神領の
 百姓よりわ
 て乳守の遊女
 とをきりし事
 けんいつの
 の々のとく成
 ちりし事
 予に



五月廿八日
 御田植神事
 早し女い泉州堺乳守遊女を
 勅いりし神功皇后長門の國より
 植女をよみ當社神事御供の御田を植
 成しと植女を用ひし事御ことよみし一説
 何れも帝の時より皇后悪瘡を
 愁ひて當社に平愈を祈りし事
 神領よりて夏日植ひ女ま
 きて神田の稻を植ひし事惡瘡



○十二日 同前

○十八日 同前

○廿三日 同前

○廿七日 同前

○晦日 荒和大祓

早且兩官社太幣殿に着座し神
官四人神殿より祭り神供と備奉り
正称宜祝詞と奏し神寶を出し奉り
同し次五折の所供備奉りて各退
出れ兩官住江殿
と束帯を着已尅以下の官を引
て下客殿の庭
着座正称宜北よむて祝詞と奏し
次酒一獻とす
心次各奉法より各樂所亂聲を
奏し神樂一基神
馬を寄奉り出江の時慶雲樂
奏れ北の門より出て
猪の鼻と南へ曾利橋と渡り西
の大鳥井より出つ爰とて
各馬に乗る泉州堀の宿院へ
供奉は但し音樂は
大鳥井のかけりして止む宿院
より還り平橋より各下馬橋
連々踏と舞入次舞樂よりて
還り平橋より各下馬橋
の北よむて被り後西の門より
入江氣三四の御殿
の所と過て南中門より軒出
しやせり扱神寶等
と納め奉り次酒三獻
終て各退出

七月

○朔日 早且兩官出仕拜大神

正称宜祝詞と奏し
殿廻り終て退出

○二日 同前

○三日 同前

○七日 神寶蟲拂

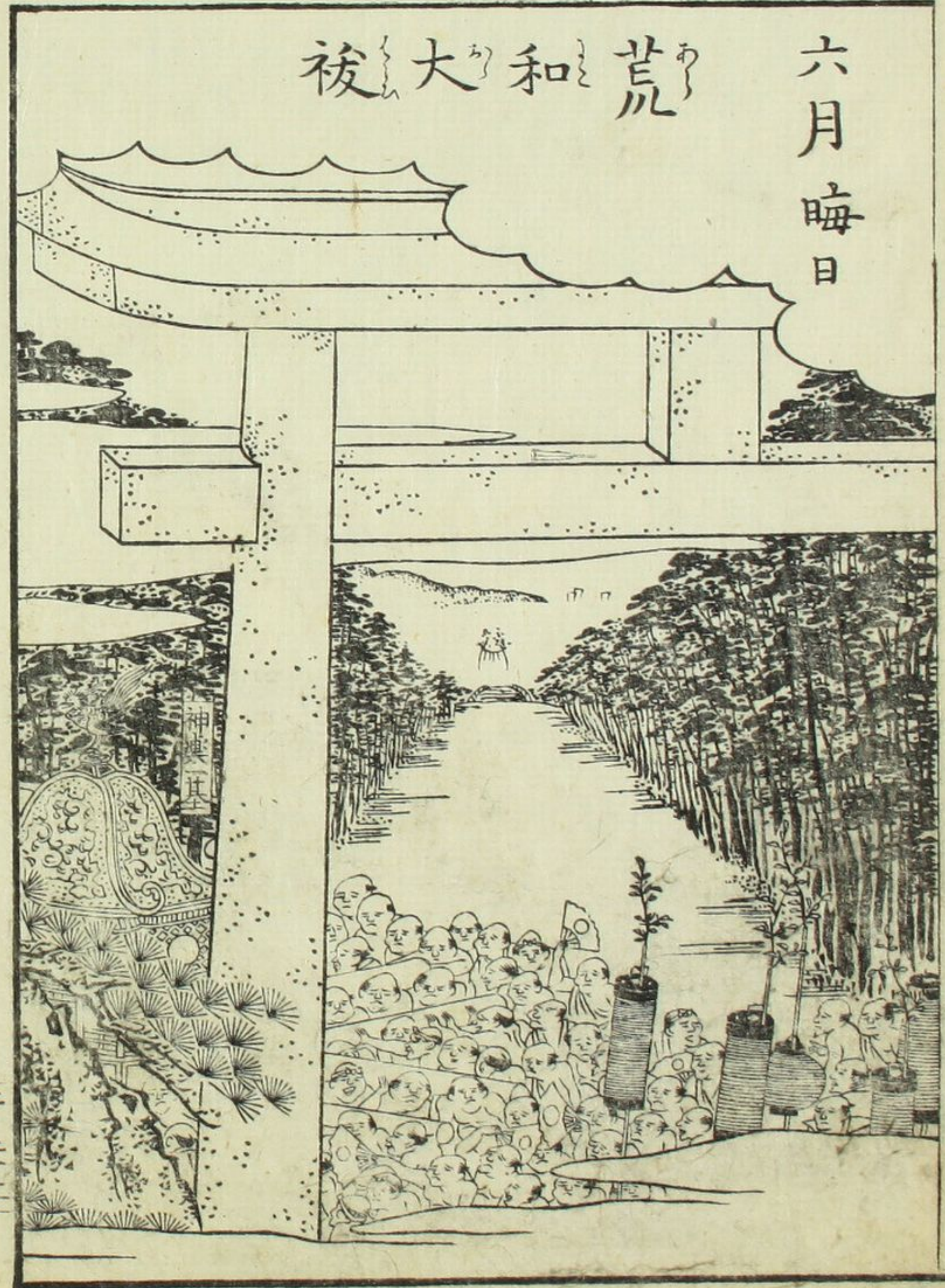
庭の尅兩官氏人神官南門前
廻り神供四前備奉りて後正
称宜
祝詞を奏し退き出て五折の
所供備奉りて後正称宜
廻り終て奉殿の幣殿に着座
し内東の神寶と取出
神寶の笈と封し終て各退
出れ
同日古正印殿御歌

同日申尅火替之神事

兩官出仕高机二階と海前
の庭上よ立其前よ着座し
御供四膳と高机に備へ正称
宜祝詞と奏し後則備へ
奉り神供と兩官の前よ居
神官等拜膳は次酒一
獻終て
各退出

六月晦日

荒和の大後



三ノ二十二



水無月の御後住の御祭禮
大祭禮
攝泉行内
紀の國淡路播磨の
遠く國より諸の
羣船大坂堺の津に
奉りて神幸の拜
奉りて攝府の守りも
代系とて神馬の
引さるるの余の
儀伯の御
大坂堺の町より北車
後園の旗のありぬまは盡す

桑西

加藤長

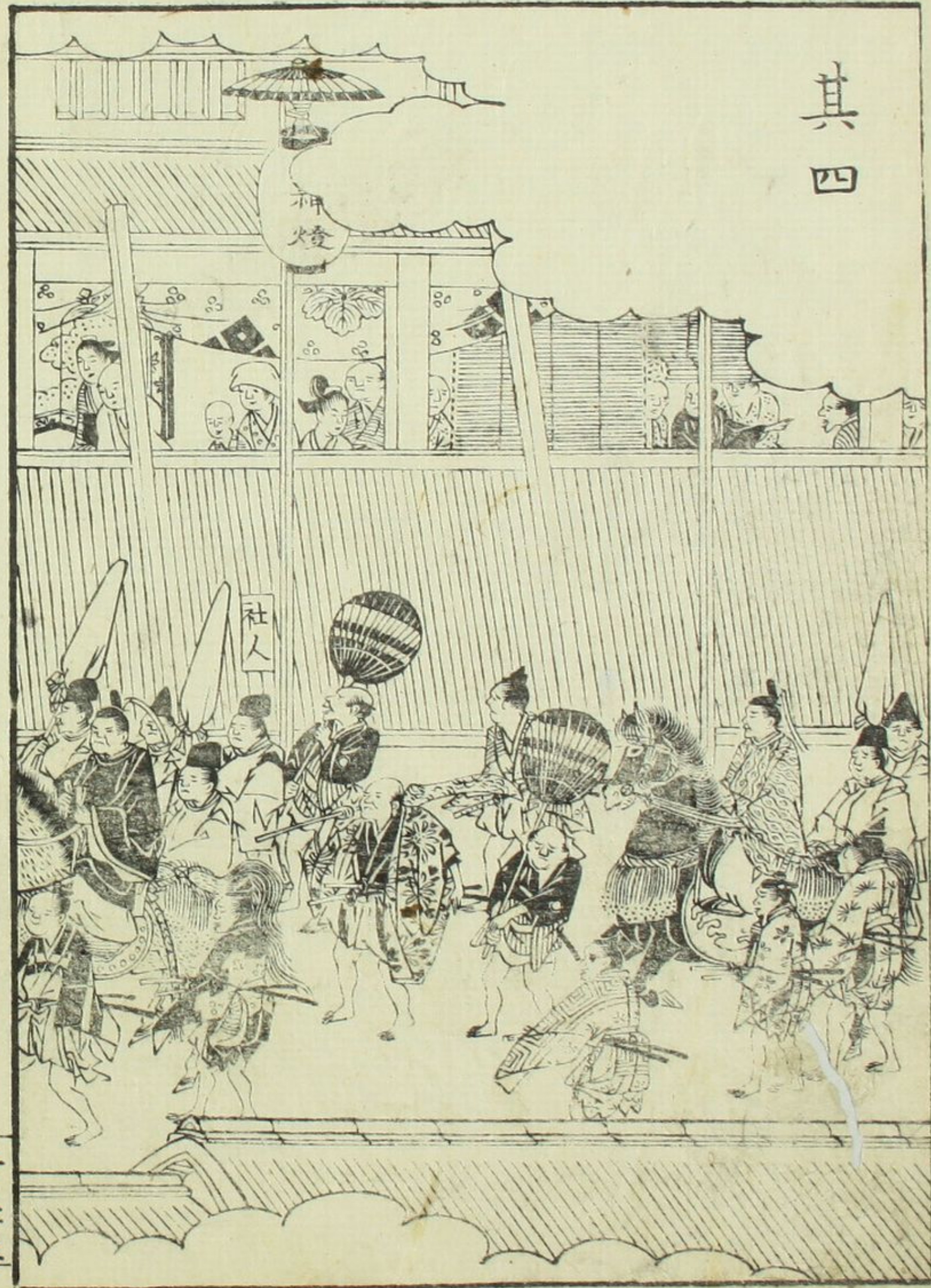
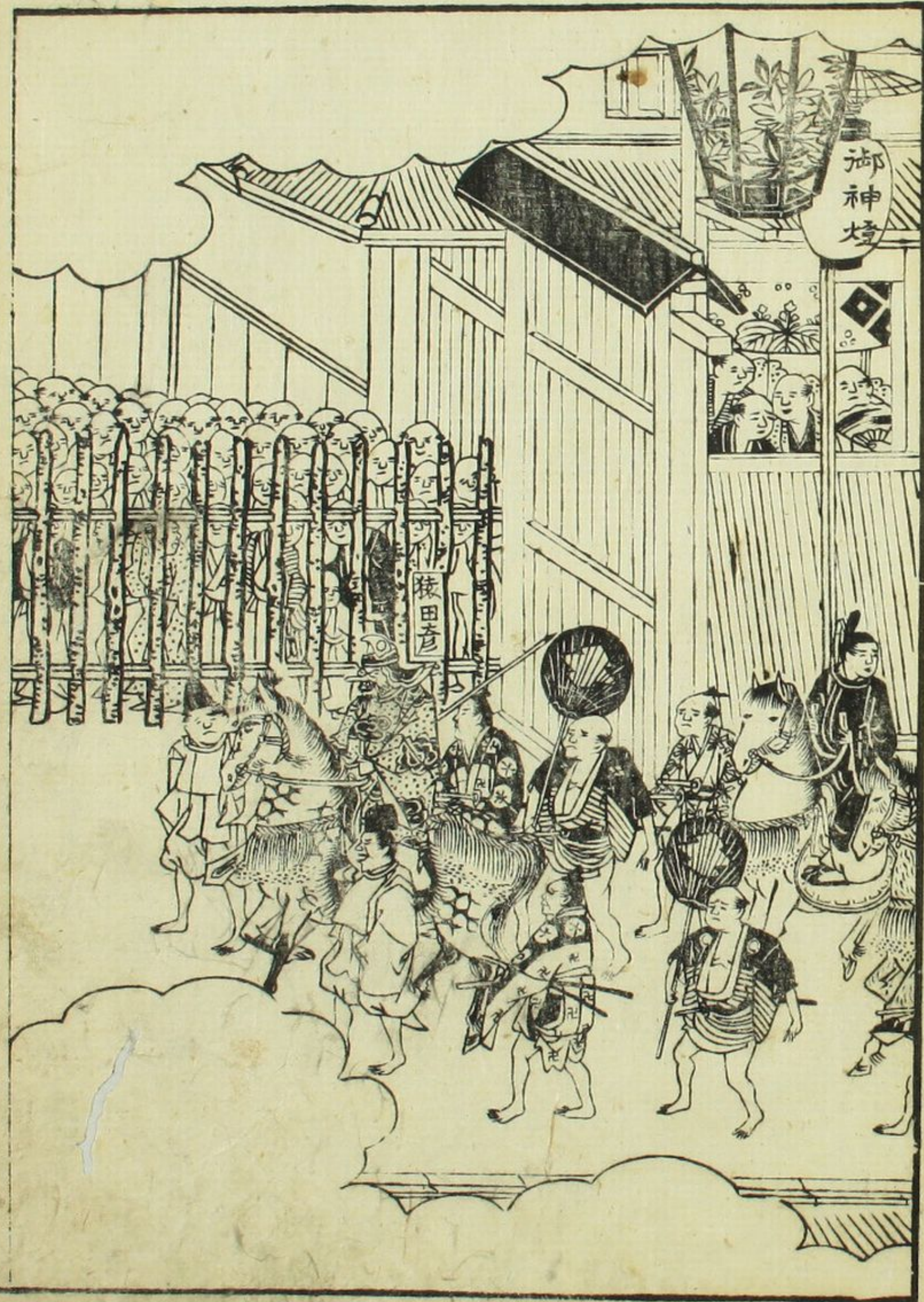


其二

俄然りよあし
号て或とらる
すくはたれん
さぬよお立て
神魚代

いふあまの
九泉州堺
宿院より
安立町新家
天下茶屋
今宮道頓堀
三千里行程
社の人
いしと立ち
とみて
惟と立ち
祈り





其四

○十二日 早旦兩官以下出仕奉幣拜大神 正祿宜祝詞

○十五日 孟蘭盆會 辰の尅兩官以下一本社幣殿に着座に御供四前備奉正祿宜祝詞を奏し

終て五折の神供例の備殿廻り終て南門より住江殿入午の尅孟蘭盆會神人案内と申し兩官以下南門より本殿入る樂所亂聲を發し大海社司氏人等左右の廊に着座に讀誦師高座より上行道講終て樂所散手貴徳を奏し相撲十番勝負の舞拔頭納獲利長慶子を奏して退出

○十八日 兩官出仕拜大神

○廿三日 同前 ○廿七日 同前

八月

○朔日 早旦兩官出仕奉幣拜大神

○二日 同前 ○三日 同前

○八日 花摘御供 辰の尅四社の御供

○九日 己尅若松社神御供 ○十日 己尅奥天神御供

○十二日 兩官出仕拜大神 ○十五 古正印殿御歌

○十六日 兩官出仕拜大神

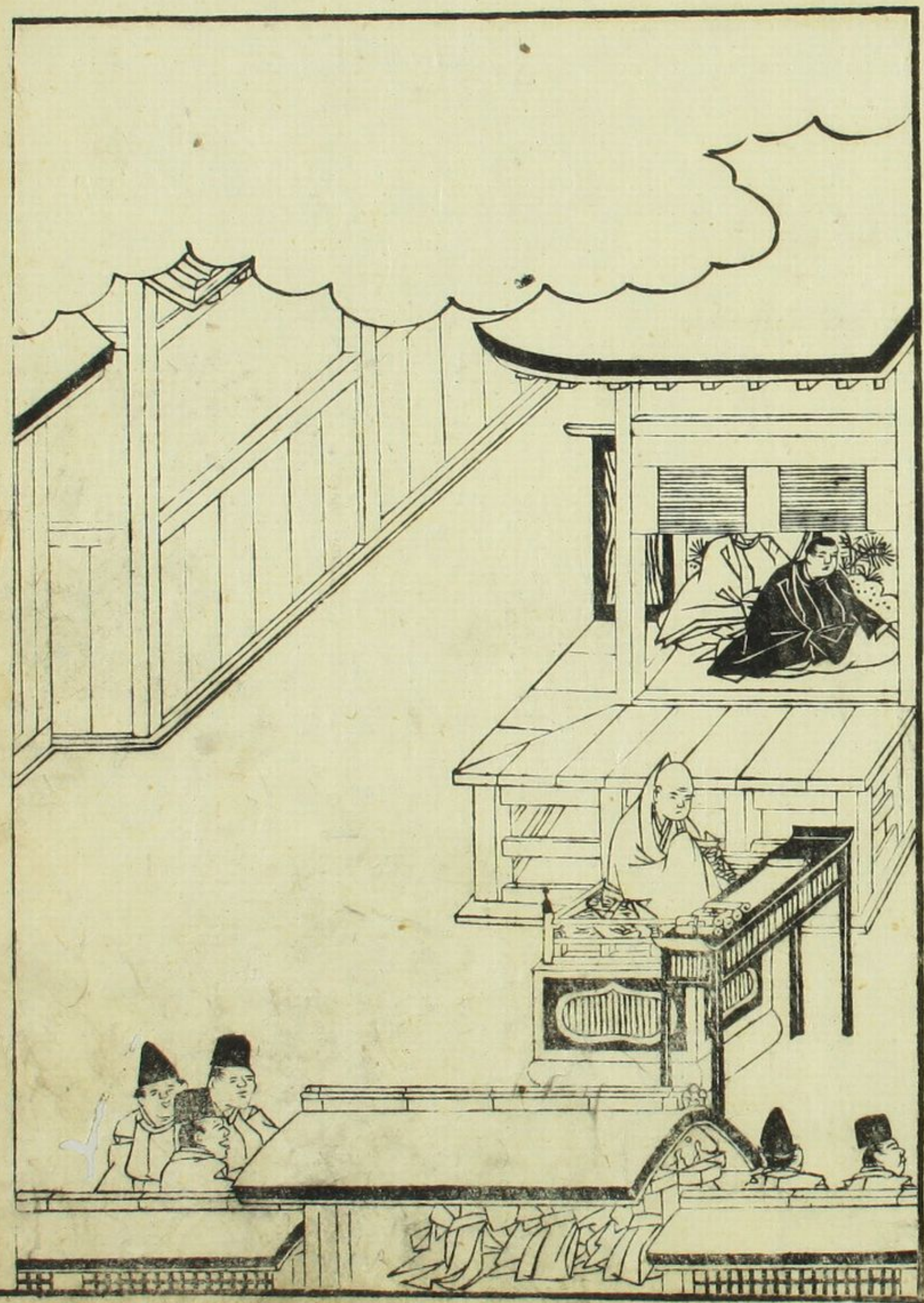
○廿日 相撲會定之神事於上客殿行之 午の尅兩官以下

入樂所亂聲を發し大海社司神事の定文と兩官より呈し兩官判を加終て饗膳酒一献の同樂所陵王納獲利を奏し今日より相撲會齋

○廿三日 兩官出仕拜大神 ○廿五日 二季連歌同二月

○廿八日 兩官出仕拜大神

九月



盃蘭盆會

七月十五日



○朔日 早旦兩官出仕奉幣拜大神

○二日 同前日 ○三日 同前日

○九日 辰尅神供備進 兩官以下樂所出仕例の... 神供奉

廊より五所の御供例の... 終て三月會殿中... 陵王納蘇利

○十二日 兩官出仕拜大神 ○十三日 相撲會 寅上尅宿院

發... 辰の上尅兩官以下南門より奉仕に... 奉り奉り慶雲樂を奏して... 北へ行て宿院の面の四足門より... 了る兩官以下左右に... 奉り神樂神馬を下り...

兩官以下席を定む此同競馬左右より... 此同宿院より... 悉く盃酒を... 兼龍の御供と捧ぐ... 負の舞... 奉り還城樂と奏し... 猪鼻より西門より入り南中門より入れ奉り神樂神寶と...

○十六日 兩官出仕拜大神 ○十八日 同前

○廿一日 同前 ○廿二日 同前

○晦日 玉出島御祓之神事 辰尅四社御供備進兩官以下

北の廊より安置し五所御供例の... 已尅兩官以下出仕樂所亂聲と發し... 寄奉り御幸北中門より西門より出でて曾利橋と渡り北の... 於宿院より神樂を居奉り兩官以下廻廊より着座し





十月

○朔日 早且两官出仕拜大神

○二日 同前日 ○三日 同前日

○七日 同前日 ○八日 同前日

○九日 同前日 ○廿日 同前日

十一月

○朔日 早且两官出仕奉幣拜大神 正亦宜祝詞を奏し
後て殿廻り

一載次へ連々踏終て舞樂加波類胡蝶やくを還御行列
入て二の御殿のわりと過て南門より入御神寶を御
奉り各
退出れ

○二日 同前日 ○三日 同前日

○七日 同前日 ○八日 同前日

○九日 同前日 ○廿日 同前日

○丑之日 相嘗祭齋戸祓於神館殿行之 兩官今嘗り
糸籠

○寅之日 早且两官社參 酉の尅當村より御饗膳を有り
し備進の饗齋兩官を拜し

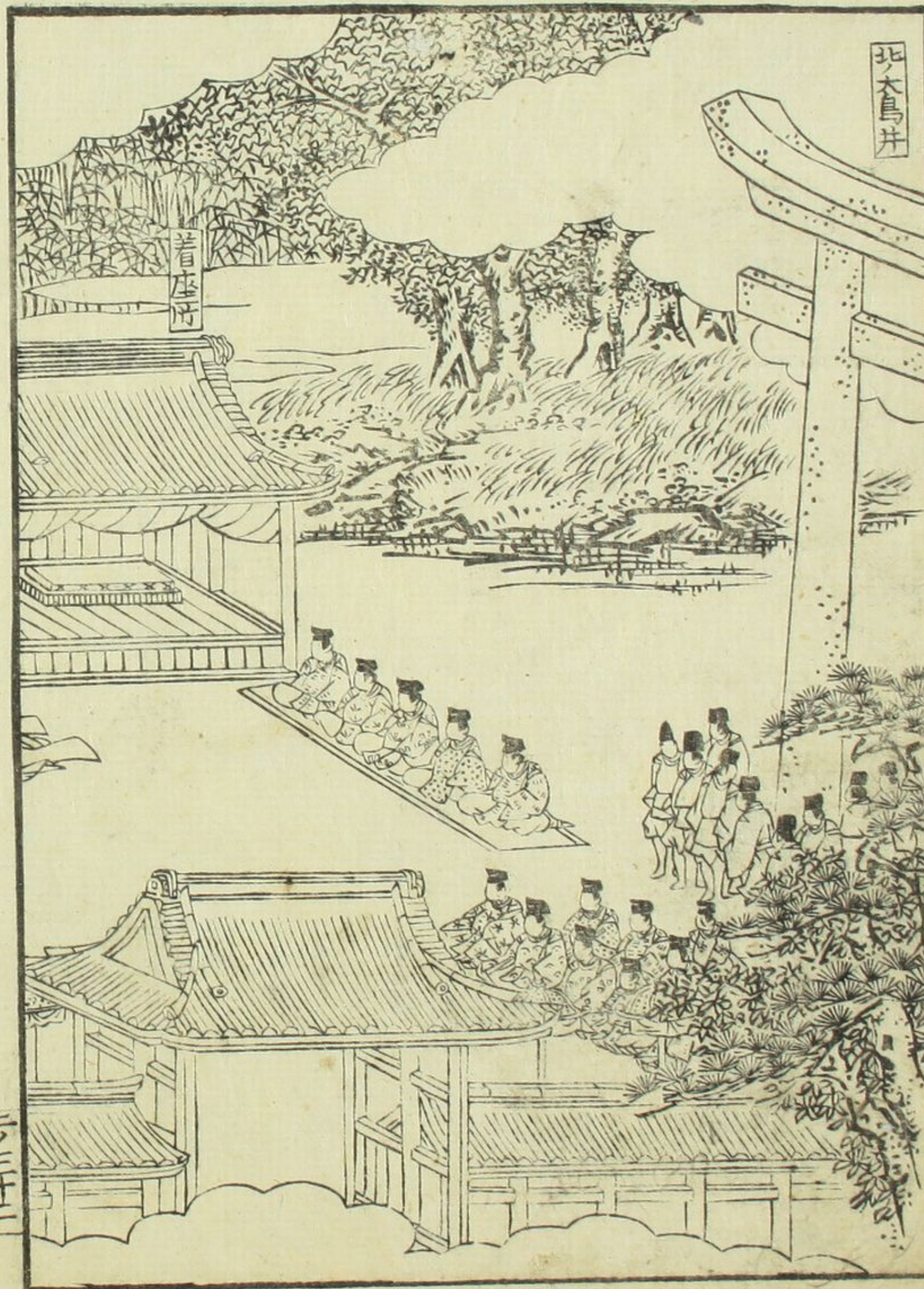
大海の社司定文と持
兩官に呈し一載終て退出

○卯之日 新嘗會早且两官社參成尅社祭神供備進

兩官以下社司巫女等下客殿に着座氏人手水をすめて
後御前より兩官以下庭上と圖座をききて座に巫女
幣殿の左右に立神供備奉り奉り奉り奉り奉り奉り

御殿同し車終て神館殿に入る

○辰之日 辰尅侍者御前御供 兩官以下神館殿に着座
神供と備正亦宜祝詞を



退^出○酉之尅國祭 各神^館殿着座巫女下^殿殿
 殿に^各廻廊^を歌曲あり和琴^笛着座昨夜^とおろし
 二三四の^御供^終て又一の社^の此^時行事^数多^られ
 酒^を解^支を覽^し退^出
 戌之尅里神樂 先^神樂^の役^人本^社の^庭上^に着^座に
 氏^人連^々踏^舞終^て退^出
 〇己之日 早旦^兩官^社社^祭酒^の刻^神館^殿着^座饗^と居^酒
 三^献終^て東^遊の^陪從^寶藏^の前^に立^東遊^を舞
 〇午之日 辰^の刻^兩官^上の^御厨^着座^各兼^て饗^膳と^居置^く神
 殿^に着^座北^の恪^子に^上け^御供^積と^下客^殿より^侍者
 神^酒と^賜ひ^て退^き出^兩官^四社^の殿^廻
 終^て歸^館參^籠今^曉て^満り

十二月

〇朔日 早旦^兩官^出仕^奉幣^拜大神 正^祢宜^祝詞^と奏^し
 兩^官殿^廻り
 〇二日 同前日 〇三日 同前日
 未^の刻^兩官^布衣^して^出仕^幣殿^に着^座
 社^僧法^事讀^經終^て各^退出^す
 〇八日 兩^官出^仕拜^大神 〇十日 神^宮寺^佛名^會
 〇十一日 兩^官出^仕拜^大神 〇十二日 同前日
 〇廿日 兩^官出^仕拜^大神 〇廿三日 同前日
 〇廿六日 同前日 〇晦日 御^煤拂^神事
 兩^官以下^大海^社司^出仕^各庭^上着^座神^官等^神殿^に参^り
 雉^の尾^の等^とと^りて^内障^及び^神寶^等の^煤と^りて^奉り
 終^て正^祢宜^祝詞^と奏^し二^三四^の
 御^殿皆^是に^同し^終て^退出^す
 〇春秋^の彼岸^初日^{より}四^日の^間御^讀經^所にお^おて^仕僧^法事
 八^講中^日放^生會^併に^歌會^{あり}



○右小祭の行事といふも一車にりらねことやうも二月二日
霜月新嘗會とて大和國田添山の土とて天皇の御宇と造
り又遠里小野より御燈の油を献する類ひ數多ありて
事繁もれ右縣の故事古實におろそかたこととし後編
よちれを出に

年中行事終

住吉名勝圖會卷之二終

